

総合学習サポートページ「雪たんけん館」の開設

高橋庸哉（北教大附属教育実践総合センター）・新保元康（北教大附属札幌小）・並川寛司（北教大札幌校）・土田幹憲（札幌市立美しが丘緑小）・割石隆浩（札幌市立あいの里東小）・佐藤裕三（札幌市立屯田南小）・坂田一則（札幌市立屯田西小）・小笠原啓之（札幌市立八軒北小）・渡部友子（札幌新川高）・太田真・遠山寛人・福田大年（ピコグラフ）
北海道「雪」プロジェクト

1. はじめに

学習指導要領が改訂され、2002年度より小・中学校で「総合的な学習の時間」が全面実施される。自ら学び自ら考え、問題を解決する力など「生きる力」の育成を狙いとして、総合的な学習の時間は各教科などで身につけた知識や技能を相互に関連づけ、総合的に活用できるようにすることを目指している。国際理解、情報、環境などの横断的・総合的な課題や児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などが例示されているが、具体的な学習活動の計画は各学校に委ねられている。

雪氷は理科や社会といった教科を越えた総合的な問題を提起し、子どもたちの興味・関心をそそり、地域の特色を活かした課題となり得る。

しかし、北海道の学校で取り上げる

べき素材であるが、ほとんど取り上げられてこなかったのが実情である。これまでの学校教育が全国的に画一化された教育内容であったため、若濱先生は「偏南」ないし「偏央」と書かれている（「雪と氷の世界」，東海大学出版会）。「総合的な学習の時間」は雪氷を学校教育で取り上げる絶好の機会である。

そこで、北海道教育大学附属教育実践センターと附属札幌小学校では、雪を核とした総合学習「あいの里探検隊」を2000年冬に共同で実践した。その時の経験から子どもたちと先生、あるいは子どもと学ぶ父母をサポートする雪氷に関するホームページの必要性を痛感し、総合学習サポートページ『雪たんけん館』の制作を始めた。第一期分の作業を終了し、公開したので、その内容について紹介する。

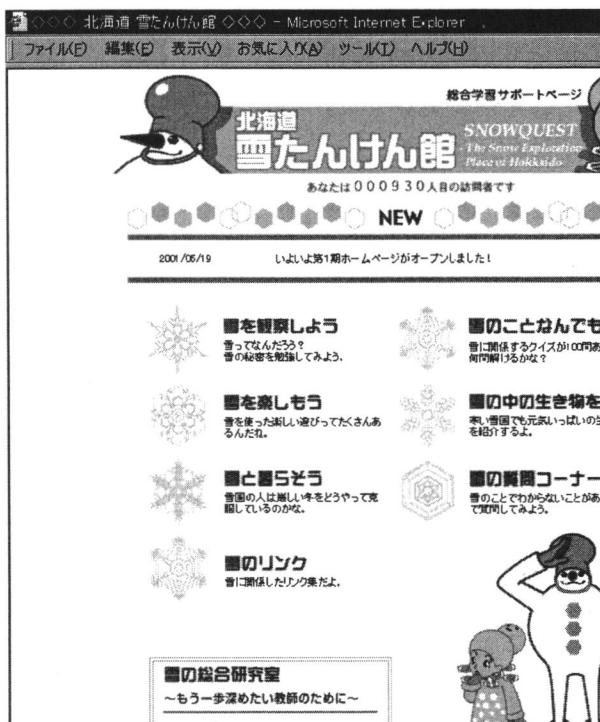


図1 『雪たんけん館』のトップページ
(<http://yukipro.sap.hokkyodai.ac.jp>)

2. 『雪たんけん館』の概要

教育現場で実際に利用され、役立つものでなければならないのが大前提である。そのためには、教育現場と大学、専門機関が一体となって、教材研究に関する専門性・実践力と雪に関する専門性を融合させる必要がある。そこで、道内教育現場や本学教員、雪の研究者約 30 名からなる研究会「北海道<雪>プロジェクト」を立ち上げ、制作するホームページの基本的な性格付けと企画を行った。

ホームページの目的は雪を多様な側面から総合的に探究する子どもたちとそれを手助けする先生をサポートすることである。内容面では、子どもたちが雪を総合的に学び、自然の偉大さやすばらしさに改めて気づくとともに、雪の困難を克服し、身近な自然を積極的に利用する人間の知恵に目を見開くことをめざしている。自然現象としての降雪の科学や社会事象としての雪と人間の関係など‘親雪’、‘克雪’、‘利雪’といった様々な側面から情報を総合的に提供する。

現在公開しているのは、

- a. 「雪を観察しよう」
- b. 「雪を楽しもう」
- c. 「雪と暮らそう」
- d. 「雪の中の生き物をさぐろう」
- e. 「雪のことなんでもクイズ」
- f. 「雪の質問コーナー」

この他に教師が教材研究するための「雪の研究室」がある。図1と図2にページ例を示す。

プロジェクトは始まったばかりであり、教育現場のニーズに併せて、さらに内容の拡充を図っていききたい。

謝辞： 本プロジェクトの経費は北海道教育大学学内教育改善推進費による。尚、本ホームページのデザインは北海道教育大学卒業生が起こしたベンチャー企業 Picograph による。

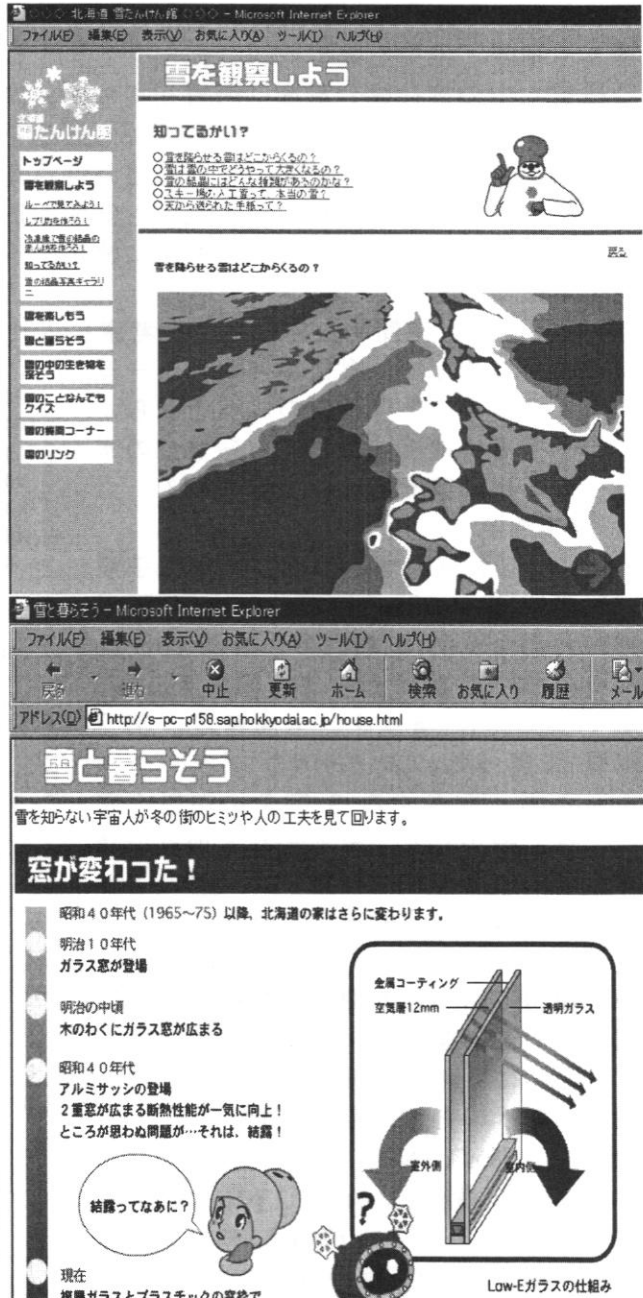


図2 『雪たんけん館』のページ例